

心が乾燥したとき

観光と巡礼には歴然とした違いがあります。観光は面白く、楽しく、飲酒やカラオケでにぎやかな雰囲気を作り、歩いたり登ったりするような難儀なスケジュールは極力はぶかれます。

一方、巡礼はあえて苦を求めます。例えば、登山などは山頂で神仏に会えるという法悦がありますから、霊山へは「六根清浄」と、声を掛けながら年配者もがんばって登っていきます。

巡礼は自分の足で実際に聖地を歩くことが肝心です。聖地を歩くだけで宗教的な体験ができるからです。書物の理解だけでは仏さまの本当のありがたさを味わうことはできませんが、歩いて、汗を流して、体全体で聖地を踏むことによって神仏の存在を実感し、その教えを了解することができます。

巡礼とは、あえて困難に挑戦する旅でもあります。遠い道のりを、あるいは峻しい山道を、苦勞をして、べそをかいて、ひたすら歩き続ける旅が巡礼です。その道中で得た見聞はすべて自分の血肉になってたくわえられ、しかも魂が浄化されて、そのありがたさが生涯の宝ものとなります。日がたつにつれて、巡礼の体験が日常生活の中によみがえり、それが仕事の力となり、人生の励みともなります。

心が砂のように乾燥したり、獣のようにすさんだりしたときには、海や野山に身をまかせてみてはいかがでしょう。水がサラサラと流れるように、日常生活を離れた空間に出れば、今まで見えなかったことや考えもしなかったことが湧き出てくるものです。とくに巡礼の旅では、「本来無一物」や「仏さまのたなごころ掌」を感じ取り、本心をつかみ、新しい道を発見することができます。

悩みのある人は思い切って巡礼に出かけることを奨励します。かならずや何かに気がついて帰ってくるができるかと私は確信しています。

金龍寺前住職 近藤堯寛 著『空海大師巡礼』より抜粋

金龍寺 新春お砂ふみ

平成 28 年 1 月 10 日(日)

午前9時～午後3時まで

甘酒や焼餅のお接待があります